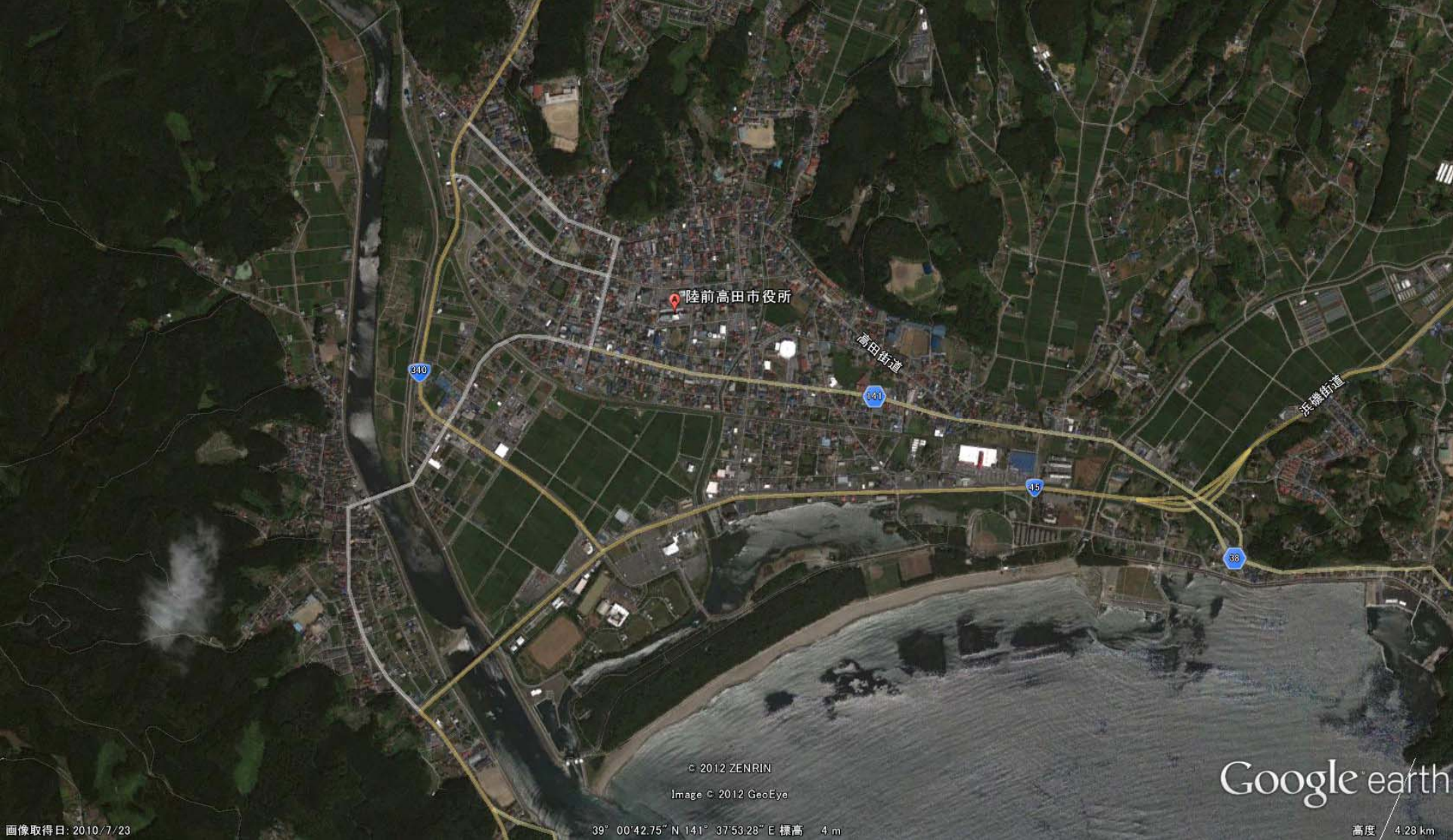


# 震災を契機としたコンパクトシティ化 —岩手県陸前高田市の挑戦—

国立社会保障・人口問題研究所

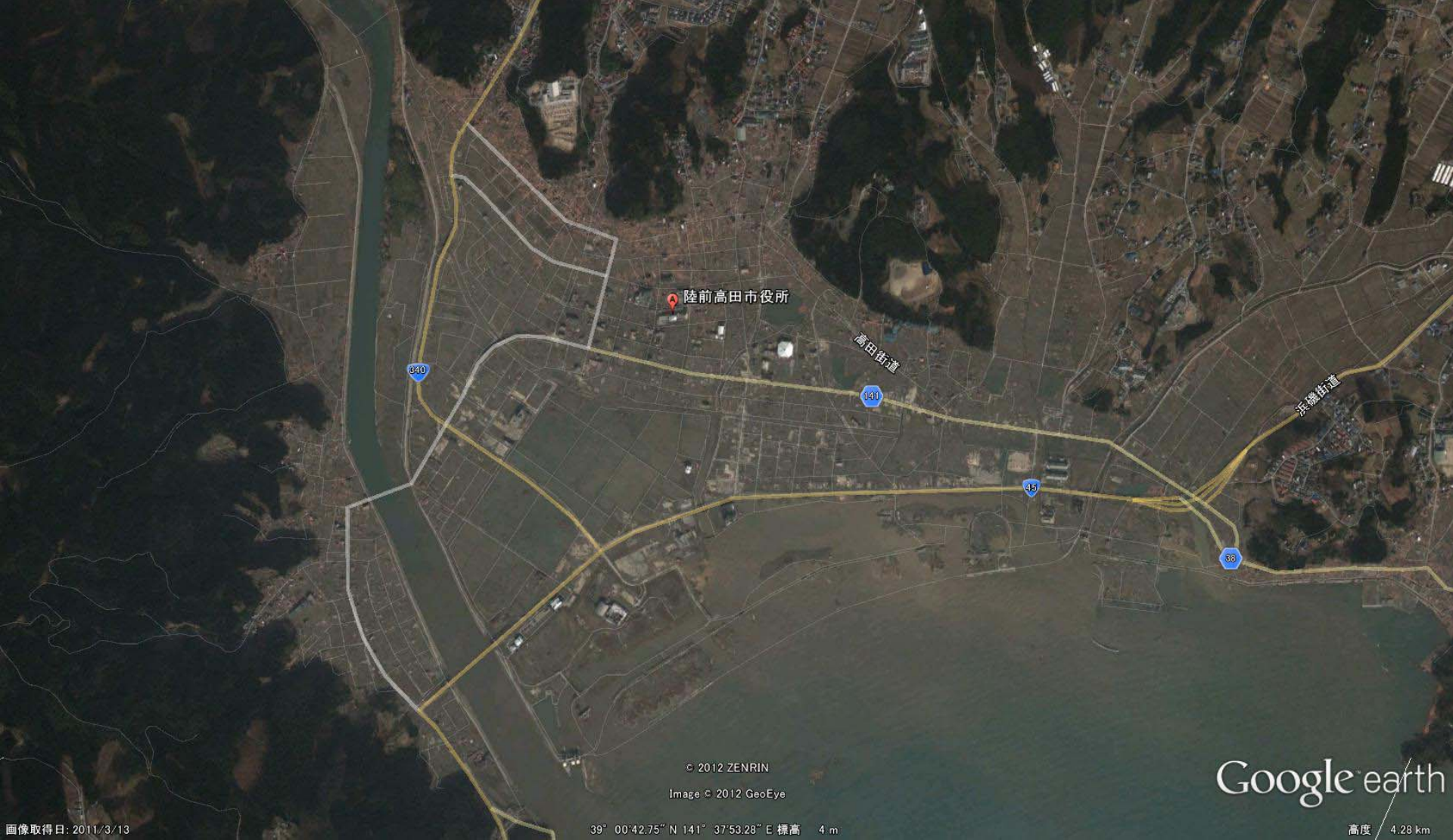
社会保障基礎理論研究部

山本克也



2010/7/23





2011/3/13





撮影日 2011/11/16





撮影日 2011/11/16





撮影日 2011/11/16

毎日新聞 2011.4.17 東京海洋大 岡安教授 測定 高さ14.8M 陸前高田市民体育館事例





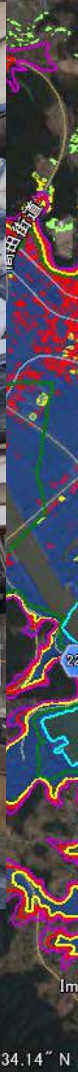
撮影日 2011/11/16





撮影日 2011/11/16





© 2012 ZENRIN  
Image © 2012 GeoEye

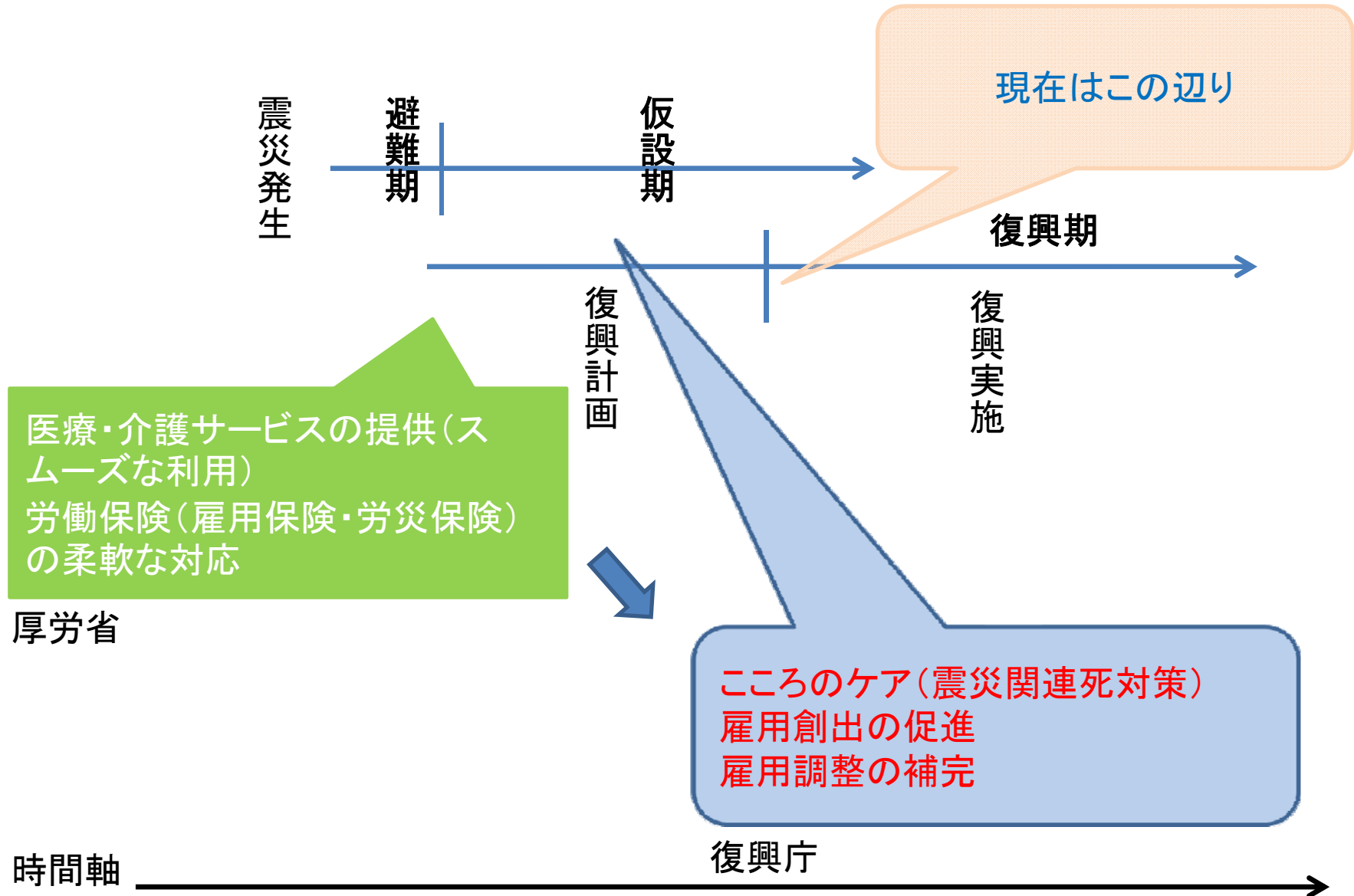
39° 00'34.14" N 141° 37'51.30" E 標高 6 m

Google earth

高度 10.56 km

青は浸水域，赤は被災建物

# 震災発生後の流れ





# 陸前高田市 震災復興計画検討委員会

## 第4回資料 平成23年11月8日開催

- 被災した市街地は、海岸保全施設等の整備に応じて、低地部が津波の浸水を免れるように高さを確保することを基本に、新しいコンパクトな市街地の形成を図る
- 被災した海岸地域等の低地部は、本市の基幹的産業と連携した新産業ゾーン、公園、農用地等の活用を図る
- 新しい市街地の基盤整備により、メインストリートの幹線道路沿いに、道の駅を中心とした商業ゾーン、山側に住宅街の形成を図るとともに、公共施設の整備や民間医療施設、金融機関、郵便局等の公益施設、鉄道、バスターミナル等の再建を促進する。
- 学校、コミュニティセンター、保育所、消防屯所等の公共施設は、高台に配置



# 震災前のまちづくり計画

## 東北全体

平成9年3月未来都市検討委員会

平成12年3月街なか居住研究会

平成21年3月東北地方コンパクトシティ  
検討委員会

平成23年2月東北地方コンパクトシティ  
プロジェクトチーム

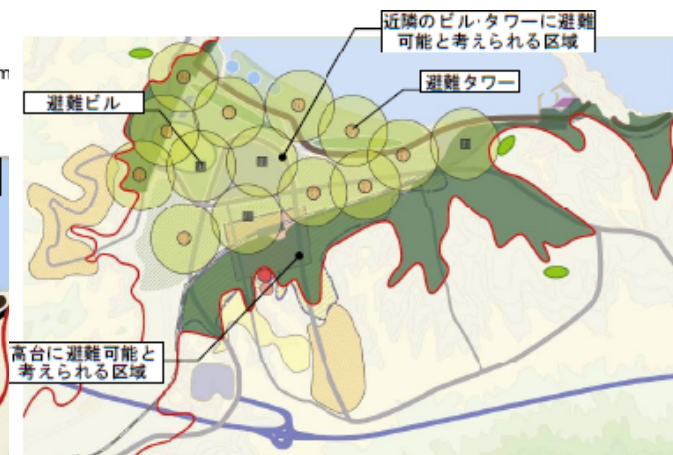
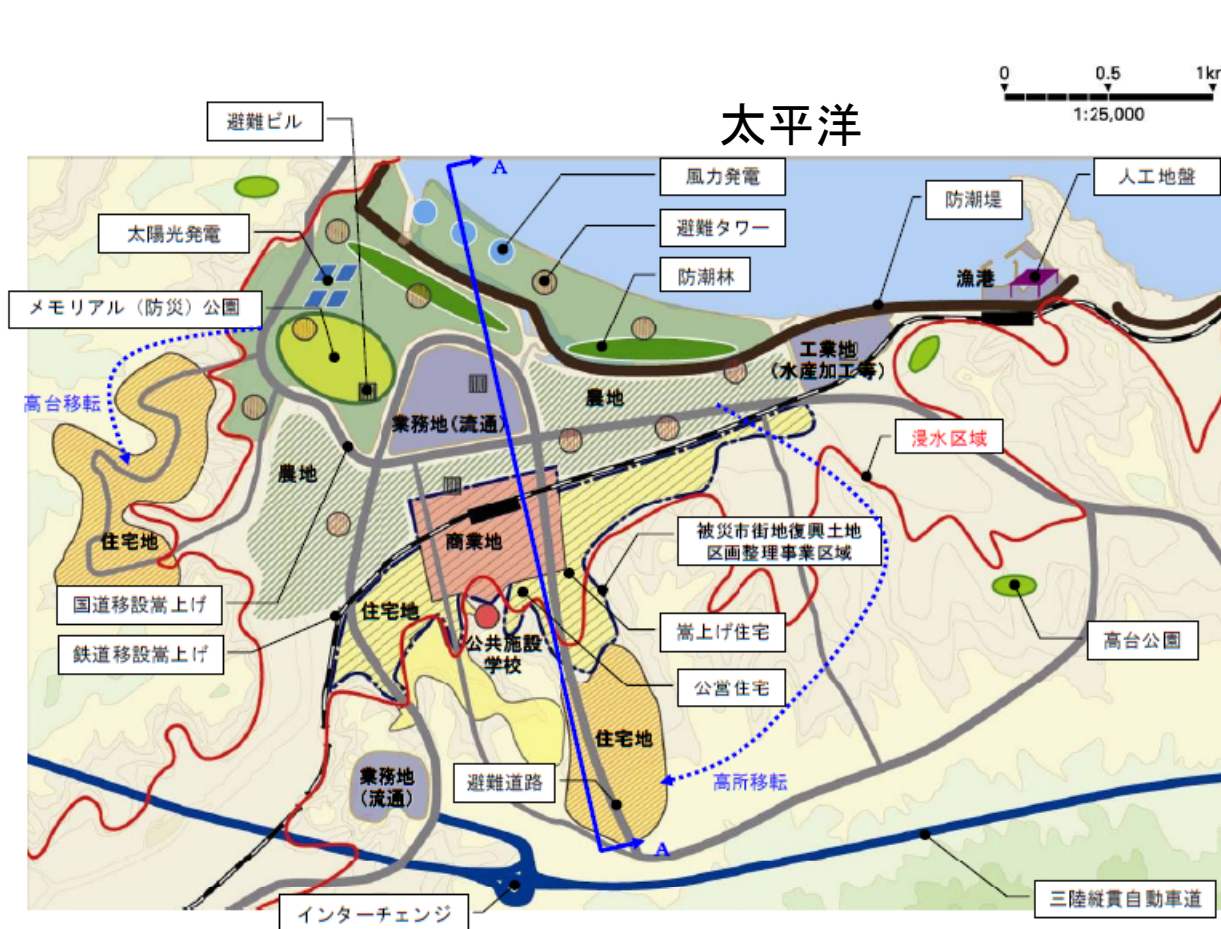
## 岩手県



平成16～17年いわて都市政策  
研究会



# 復興まちづくりのイメージ



参考: 避難可能と想定される区域イメージ



参考: 堤防と避難経路のイメージ

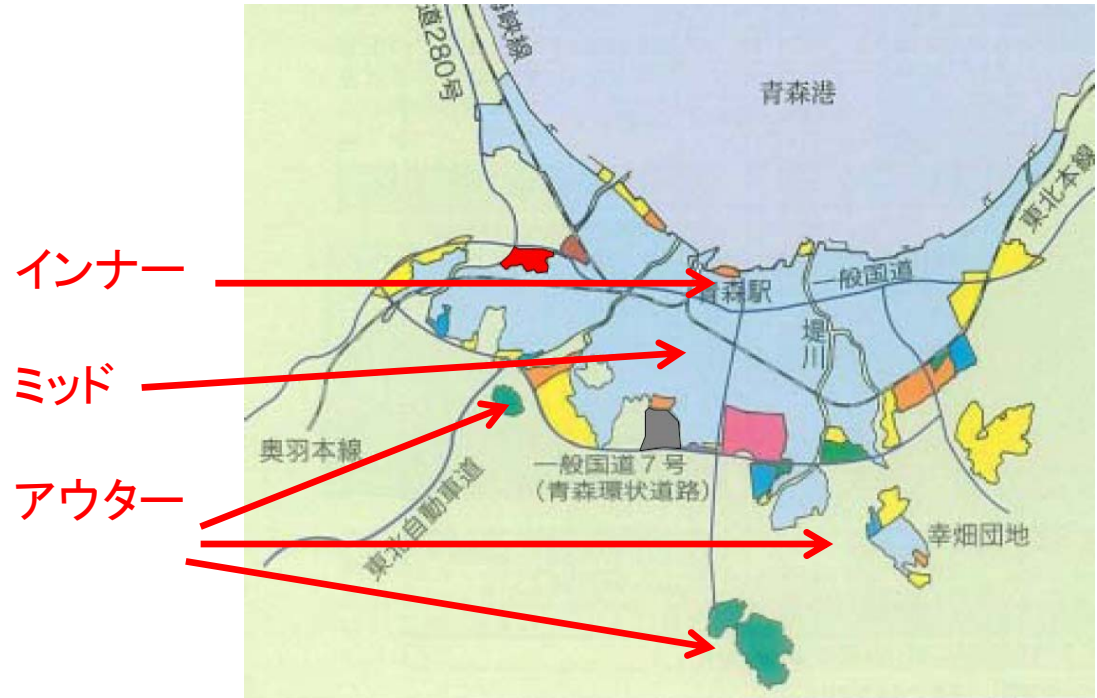
# 先行するコンパクト化地域の問題点

- 青森市の中心市街地活性化基本計画は、富山市とともに新たらしい中心市街地活性化法（平成18年8月）に基づく「認定第一号」とし多くの都市の手本となった。
- しかし、双方ともに問題を抱えている。



# 身の丈に合った設備投資の必要

- 青森市は、インナー、ミッド、アウターの三種に分け、開発を目論む。
- インナーの目玉である商業施設「アウガ」の赤字
- アウターをも繋ぐと大赤字になるバス運行

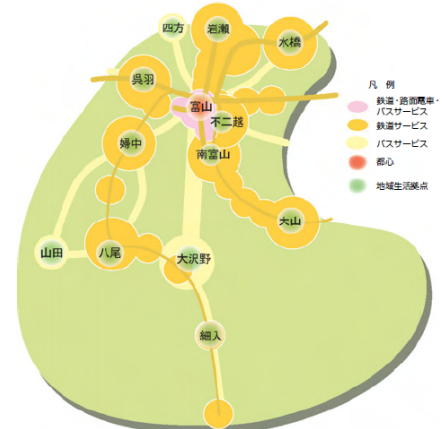


出所 <http://www.city.aomori.aomori.jp/info.rbz?ik=1&nd=116>

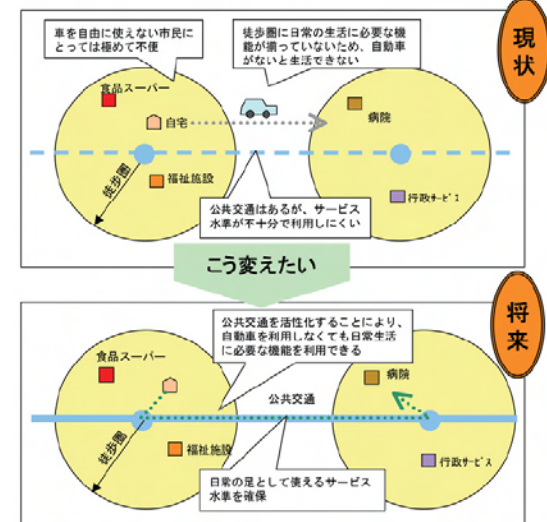
# 高齢化の歯止めも重要

- 富山市は、鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを目指した。
- 中心街の高齢者住居比率が高くなり、人口の自然減で、中心街の人口がかえって減ってしまった。

富山市が目指すお団子と車の都市構造  
**車**：一定水準以上のサービスレベルの公共交通  
**お団子**：車で結ばれた徒歩圏



車（公共交通）と団子（徒歩圏）によるコンパクトなまちづくりの基本概念





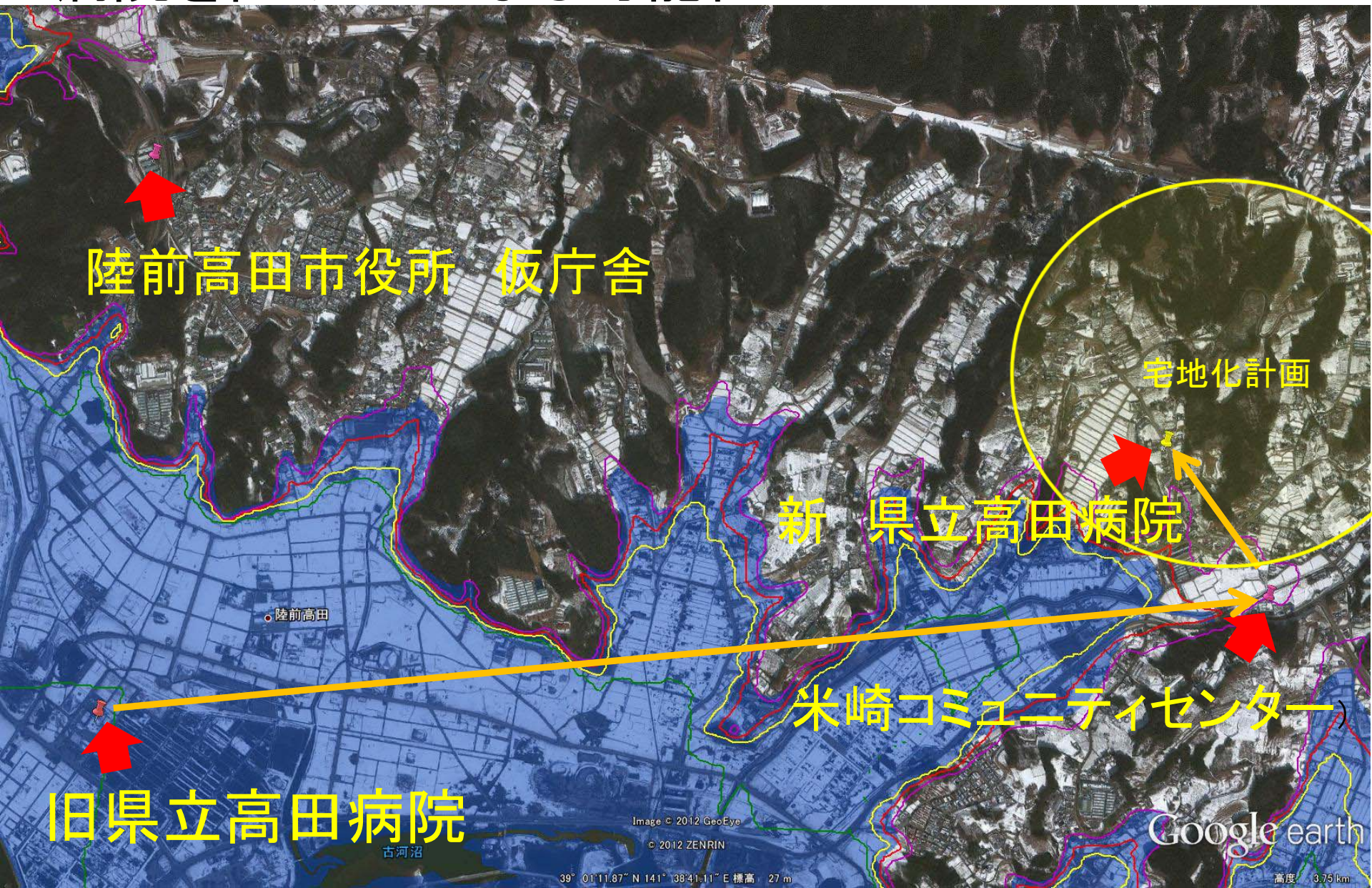
# コンパクト化に必要なこと

- 利便性の確保(役場・病院等の生活基盤)
- 仕事の確保
- 郷愁の問題

# 医療から見た利便性の確保



# 震災を契機とした病院移転は、住宅地の近隣に病院を置くことになる可能性



陸前高田市役所 仮庁舎

宅地化計画

新 県立高田病院

米崎コミュニティセンター

旧県立高田病院  
古河沼

Image © 2012 GeoEye  
© 2012 ZENRIN

Google earth

39° 01'11.87" N 141° 38'41.11" E 標高 27 m

高度 3.75 km





撮影日 2011/11/16



6つの個人診療所が被災し(医師2名死亡), 4つが復活する  
も診療所と病院の距離は遠くなった, しかし,

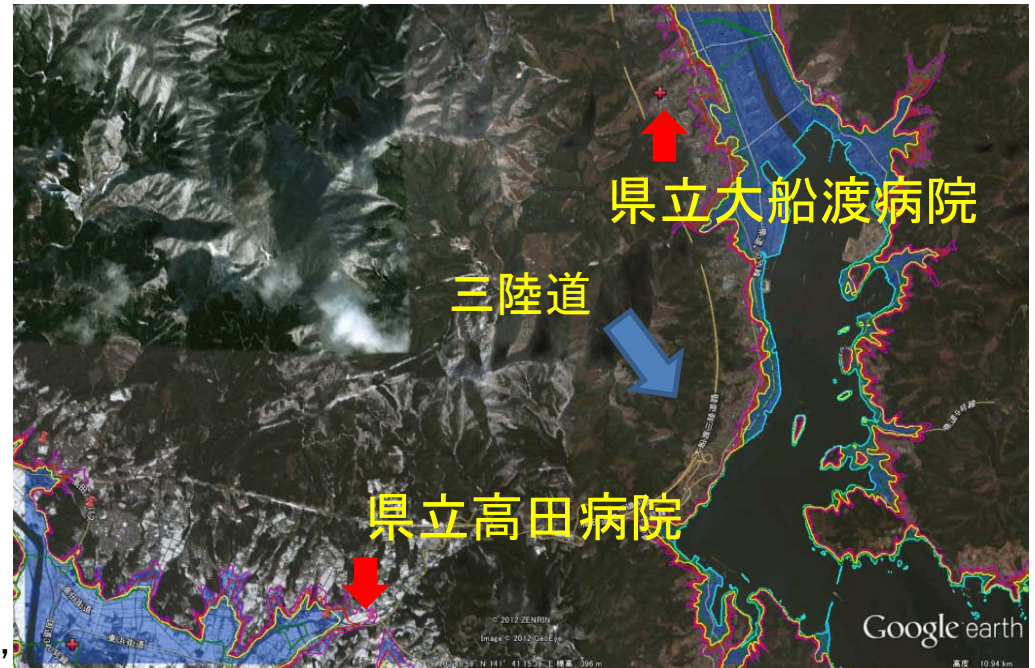


青は浸水域を示す



# 病院機能分化論から考えると

- 脳外科まで備える大船渡病院は、この地域の基幹病院。
- 三陸道を使用すれば、高田病院と大船渡病院の時間距離は10分程度。
- 高田病院は2次医療程度まで実施すれば良く、3次医療は大船渡へ送ればよい。
- この九月にも内科の常勤医が赴任。高田病院の40床程度のベッド数なら、十分に維持可能か。





# ただし、医師不足は今後も問題



出所 厚生労働省「平成21年地域保健医療基礎統計」第13表 二次医療圏別にみた人口10万対医療従事者数

仕事の確保



# 陸前高田の商店街

## 陸前高田未来商店街

- 2012年2月から順次オープン
- コンテナによる店舗展開

## 高田大隅つどいの丘商店街

- 2012年6月から順次オープン
- プレハブによる仮設店舗

# 仕事の問題

新産業創出と園芸団地の形成による復興の後押しが期待される。生産はグランパの生産部門グランパファームが担う。工場は8棟で、レタスなど1棟当たり1日450株を生産。地元のスーパー・マイヤやイオングループ、サンドイッチチェーン・サブウェイなどに出荷する。18人を雇用し、事業費は国庫補助3億円を含む4億8千万円。県の震災復興特区の認定も受けている。







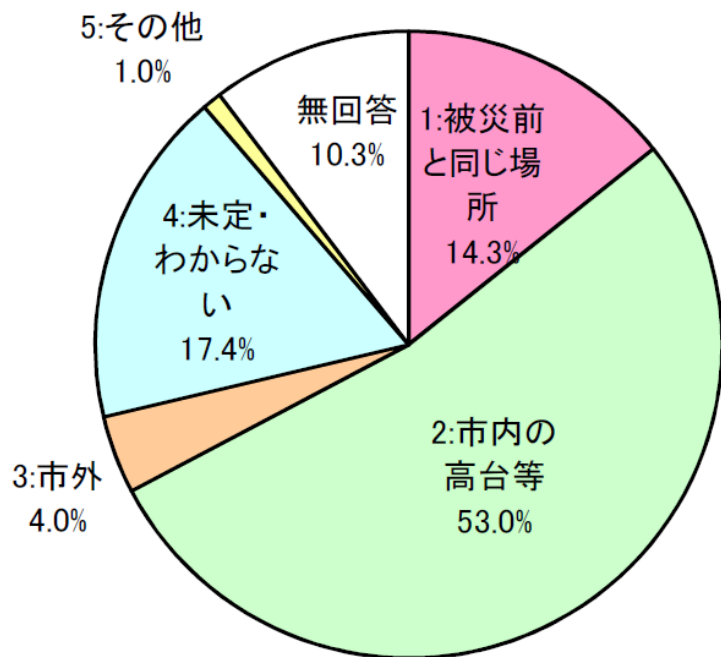






# 郷愁の問題

# 異なる住民意識は被害の程度とも関連

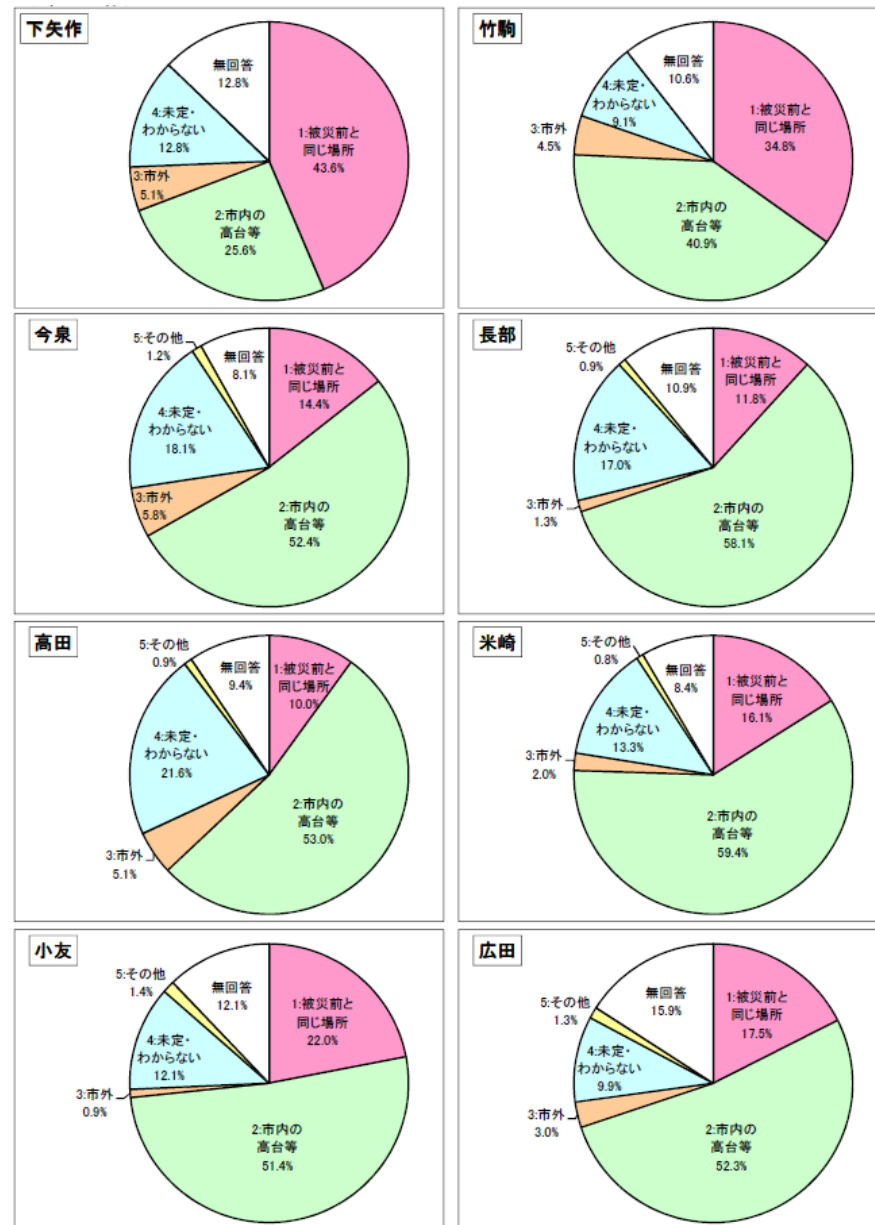


出所 <http://www.city.rikuzentakata.iwate.jp/kategorie/fukkou/fukkou-keikaku/fukkou-keikaku.html>

## 陸前高田市 死亡者数

	男性	女性	合計
矢作町	9	11	20
気仙町	84	113	197
横田町	6	10	16
竹駒町	19	20	39
高田町	439	538	977
米崎町	36	41	77
小友町	27	21	48
広田町	18	23	41

矢作町の南に位置するのが下矢作地区、高田町の南に位置するのが今泉地区、気仙町の北側に位置するのが長部地区



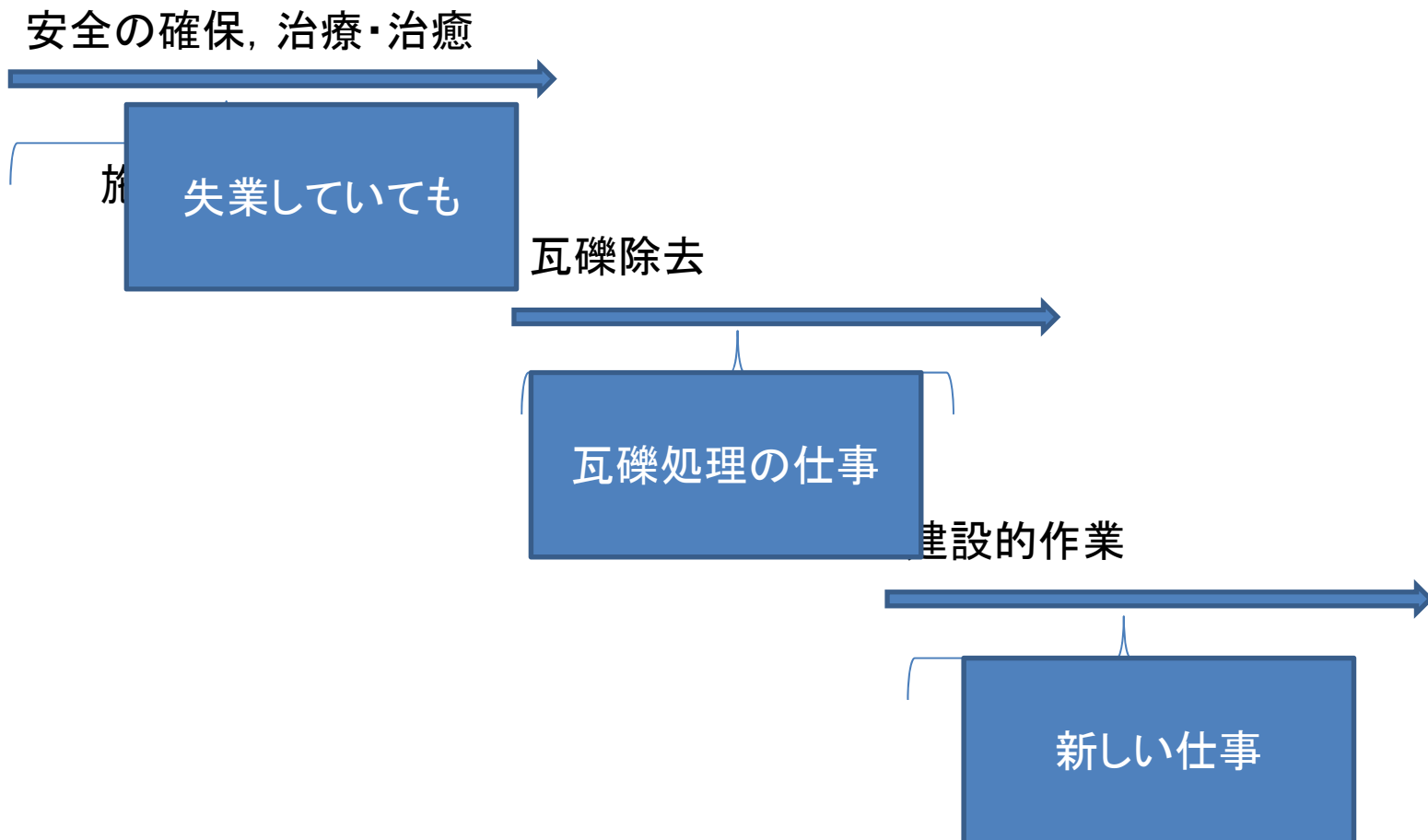
<http://www.city.rikuzentakata.iwate.jp/kategorie/fukkou/fukkou-keikaku/fukkou-keikaku.html>

岩手県警ホームページ

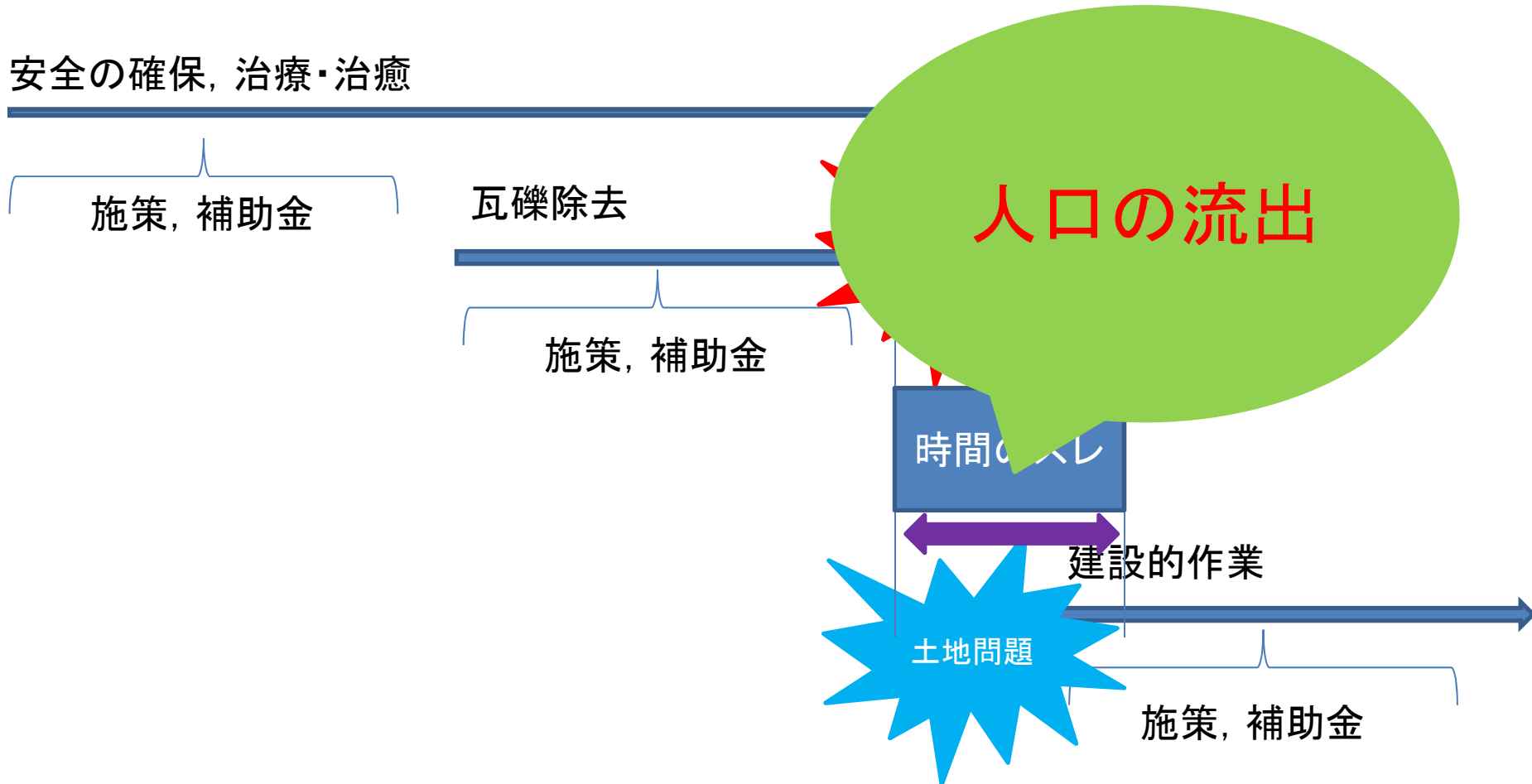
出所 <http://www.pref.iwate.jp/~hp0802/oshirase/kouhou/saigaijyohou/20110311.html>



# 震災発生後の流れ(理想)

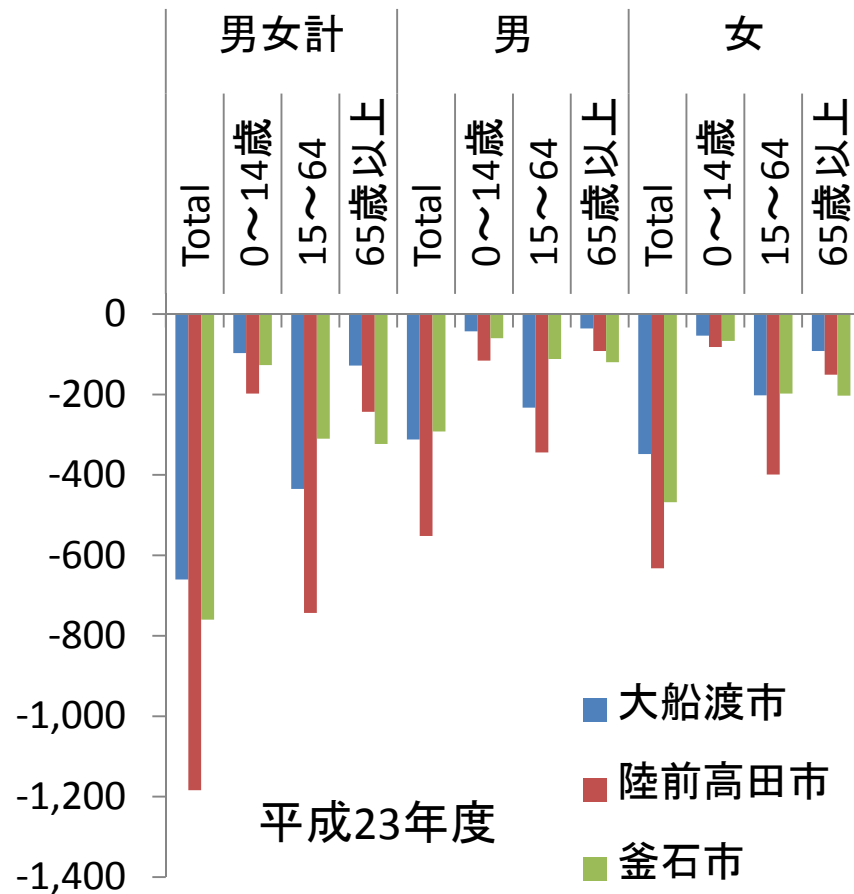
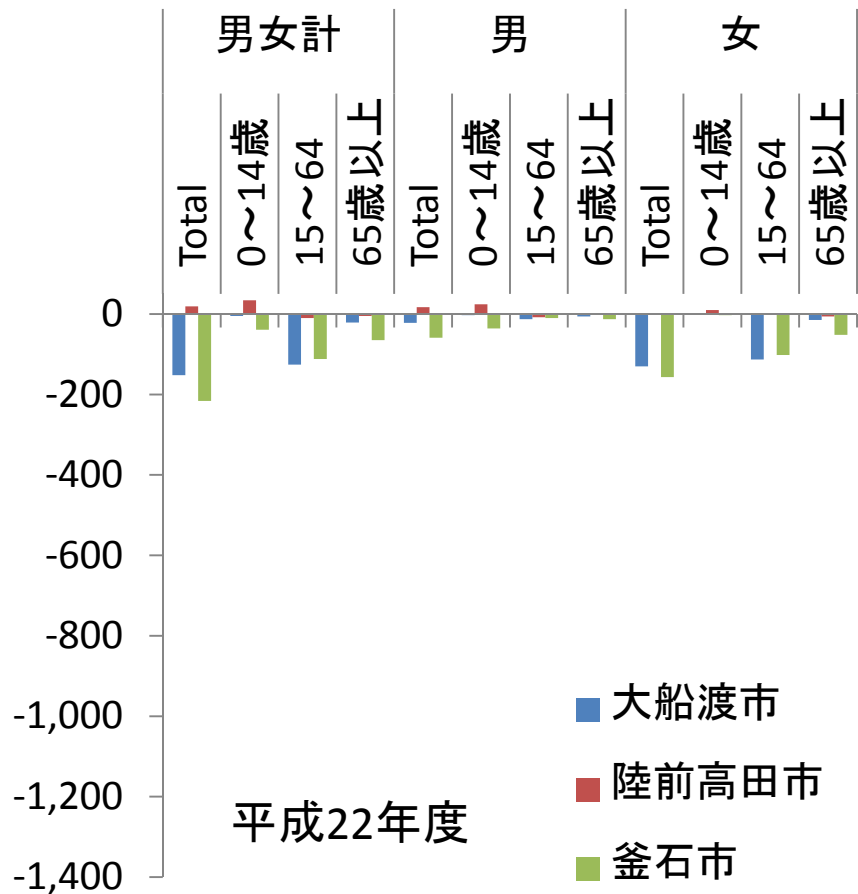


# 震災発生後の流れ(現実)

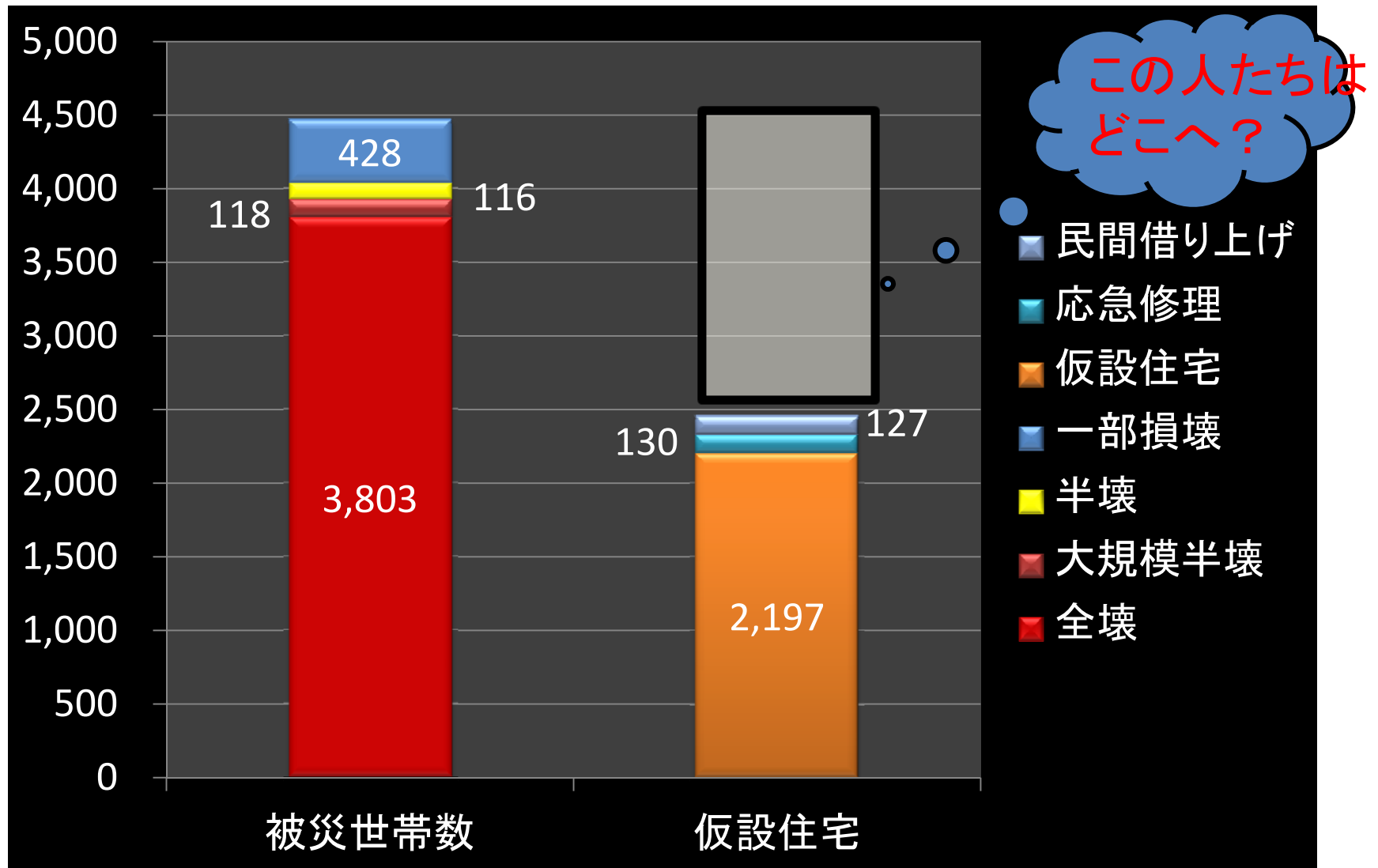




# 住民基本台帳から見た人口流出 (転入マイナス転出)



# 被災世帯の状況と仮設住宅戸数





# おわりに

- 住民基本台帳によると、いわゆる生産年齢人口の流出が起きている。陸前高田市は、その傾向を大きく変えた。
- 陸前高田市の保健センター調べと、住民基本台帳では差が約830名。この方達は、近隣の親類等に避難している可能性がある。この方達が本格的に流出する前に、素早い施策の実行が必要である。